

東北の新聞

本誌は毎月二十日発行... 石城郡新聞社

社説

濱口内閣の一枚看板とするところの金解禁の準備として、緊縮政策の實施について、適切な方法手段を執つてゐるが本縣當局も政府の意を體して市町村の全豫算に對し一割減の節約緊縮すべきことを通達せんとしてゐるやに聞くが、縣下の市町村がその豫算に對し一割減の節約を爲し得る所と、爲す得ざる所とあるべく随つて統一的に平均一割とは或る意味に於ても、その甚だしく消極的なることに驚かざるを得ないではないか。

鯉の大群を發見

磐城丸豊漁の報告

水産試験場磐城丸の漁場報告によれば、鯉ヶ崎東四分の一南二百二十五哩の海區にて、え付き極めてよき大群に、出會ひ午前中僅かに三時間半で六七百の鯉六千尾をまん獲し尙幾らでも釣れるが水不足と活洲に容れきれないため歸航したが水温は二十三度色薄淺黄で不良の方であると前して北海道より北方二十哩位の所は水温も低く鯉群はこの邊より北に進まぬ模様で、一般漁船はこの附近にあると尙十日の午前十一時に同所て磐手丸も七千尾釣り尙は釣りつゝあると

水不足の爲め歸航

石城聯合青年 体育大會

石城郡聯合青年團主催の体育大會は二十七日午前九時半より、磐城中學校グラウンドに於て開催されるが競技種目は左の如くである

- 陸上競技 百米、四百米、千五百米、一萬米
- 走幅跳、走高跳、砲丸投、八百米リレー、劍道
- 柔道、相撲
- 高等蔬菜栽培講習會

悪運盡きた賭博犯

天狗の政吉御用

巧みに法網を逃れてたが内郷で平署員の手につか

石城郡夏井村生れ渡邊政吉を脱がれてゐたが十六日午(四〇)は俗に天狗の政吉と後二時頃内郷村大字宮澤地内道路を通行してゐたのを平署の大谷巡査が発見取押へんとした處政吉は素裸と有し昨年十月中平町久保町に於てト博開帳中を平署の成海巡査が発見取押へんとした處巡査に抵抗して傷害格闘を續けた上漸く逮捕しを與へて逃走其の後平町鎌本署に引致嚴重取調へ中で田村、石城郡湯本町、平窪ある村其他數ヶ所に於ても何れも現場から逃走して巧みに平署の嚴重なる警戒網に開きつゝ

松崎の運轉手

花澤文庫氏を轢く

平署の取調を受く

平町二丁目松崎自動車部乗取調を受けた

竹内七郎(二〇)が十六日午後一時四十分頃平町胡摩澤地内を疾走中前方より疾走して來た貨物自動車と避けんとした際通行中の平町役所を轢き、花澤文庫(五三)を轢き倒し全治二週を要する回春院を設置し患者の入院を治療をなしてゐるが、年

黄金の雨に

シウ眉を開いた

双葉郡地方の農民

だが今少し欲しかつた

双葉地方に於けるカン害に就ては昨報の如く畑作物は殆んど枯死し水田はかんがい水に不足を來し一面に龜裂を生じ悲惨を極めてゐたが十六日午前五時頃からしう雨あり午後迄降り續いたので一般農民は漸く愁眉をひらき黄金の雨が降つたと喜んでゐるが未だ充分と迄は行かない

夜ばへ男

平署に檢舉

田村郡大越村生れ當時石城

平署に檢舉

田村郡大越村生れ當時石城

回春院

設置の計画

平町役所を轢き倒し全治二週を要する回春院を設置し患者の入院を治療をなしてゐるが、年

双葉の特信

双葉地方の農民

だが今少し欲しかつた

双葉の特信

双葉地方の農民

だが今少し欲しかつた

双葉の特信

双葉地方の農民

だが今少し欲しかつた

西洋料理 丸昇軒

電話四三九番

味なき酒をのむこと三時間餘、折柄來れる好問支部の中原君へ〇〇社長を托して入山支部へ急行する。同志の差入辨當を汽車車と決定し直ちに手配してから一路平町へ。社會組織の中に不合理、欠陥とがあれば、當然生れ來るものは社會悪であることは何人も肯定すべきであらう。

双葉の特信

双葉地方の農民

だが今少し欲しかつた

双葉の特信

双葉地方の農民

だが今少し欲しかつた

双葉の特信

双葉地方の農民

だが今少し欲しかつた

双葉の特信

双葉地方の農民

だが今少し欲しかつた

双葉の特信

双葉地方の農民

だが今少し欲しかつた

白銀町 丸山雜貨店

